



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



大阪大学 産学共創教育事業

「2022年度イノベーション女性活躍推進プログラム」報告書

2023年1月

イノベーション女性活躍推進プログラム

▶ 本プログラムは、

2016年度に、大阪大学がダイキン工業株式会社及び国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所を共同実施機関として採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」を継承し、本学の産学共創教育事業※の一環として実施しました。

※ 産学共創教育事業

大阪大学と企業が協働して、ウイズコロナ・ポストコロナ時代を切り開く新たな価値創造に挑戦する女性リーダーの育成と、すそ野拡大を図る先駆的な人材育成事業を展開します。全国のモデルケースとなるようなリカレント教育や研究力向上を図る取組も実施しています。

▶ 目的

持続可能な共生社会の実現に向けて、ダイバーシティとりわけ女性活躍は、SDGs「目標5」にあるジェンダー平等の観点はもとより、多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上でも重要です。

本プログラムでは、複数機関の女性と大阪大学の女子学生が集い、それぞれの分野において第一線で活躍中の大阪大学教授陣を中心とした講義、ワークショップ、ディスカッション等を通して、変化の時代に対応した新しい価値創造（イノベーション）につなげることで、できるリーダーとしての姿を探求しています。

本プログラムの特徴

学生と社会人による
協働

リーダーシップと
イノベーションを
両睨みで習得

技術系女性の
リーダーシップ開発
に焦点

新時代の
リーダーシップの
あり方に着目

2022年度プログラム

【プログラムの趣旨】

- ▶ 女性リーダーの育成、すそ野拡大を目指す
- ▶ 様々なライフステージにある女性が、多様な個性と能力を最大限に発揮しながら、将来にわたるリーダーシップを築くことを実現することを目的とする

【背景と対応するプログラム】

- ▶ 個々人の多様性を組織やチーム、社会の強みに変えるリーダーが不可欠⇒塚原講師（インクルーシブ・リーダー）
- ▶ イノベーションを促すためには個人のレジリエンスとそれを支える社会の仕組み・価値観の変容が必要⇒根岸講師（プロジェクトとレジリエンス）、高橋講師（スウェーデンにおけるジェンダー平等の取り組み）
- ▶ 地球規模の課題解決や社会ビジョン実現には現状の延長ではなくイノベーションが必要⇒西原講師（知識創造経営）、原講師（フューチャー・デザイン）

【昨年度からの変更点】

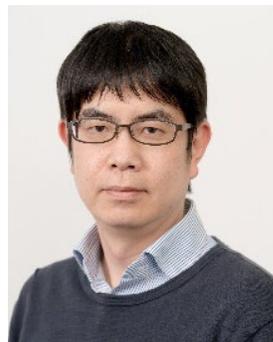
- ▶ 前回までもお願いしていた基幹を擁する講師陣による内容に加え、新たに高橋講師に北欧のジェンダーやライフワークバランスに関する最近の話題や歴史的経緯などを加えていただき、参加者にとって本プログラムでの学びについての実感度をより高めることを狙いとした

2022年度プログラム講師陣

上須 道德 教授

(コーディネーター)

- ▶ 大阪大学 大学院経済学研究科
- ▶ 阪大・女性リーダーシップ論



原 圭史郎 教授

- ▶ 大阪大学 大学院工学研究科
- ▶ フューチャー・デザイン



塚原 月子 講師

- ▶ カレイディスト代表取締役社長
- ▶ リーダーシップ講義・演習



根岸 和政 講師

- ▶ 大阪大学 大学院工学研究科
- ▶ プロジェクトとレジリエンスについて



西原 文乃 准教授

- ▶ 立教大学 経営学部
- ▶ 知識創造とイノベーションとリーダーシップ



高橋 美恵子 教授

- ▶ 大阪大学 大学院人文学研究科
- ▶ ワークライフ・キャリアビジョンを描く



スケジュール

| | 10月20日(木) | | 10月27日(木) | | 11月10日(木) | | 11月17日(木) |
|----------------------------------|--|----------------------------------|--|---|----------------------------------|---|-----------|
| 9:30 | 開講式 | | | | | | |
| 1限 9:50 11:10 | <u>フューチャー・デザイン演習Ⅰ</u> 講師：大阪大学 原 圭史郎教授・上須 道德教授 | 1限 9:30 10:50 | <u>フューチャー・デザイン講義</u> 講師：大阪大学 原 圭史郎教授 | <u>プロジェクトとレジリエンスについて</u> 講師：大阪大学 根岸 和政講師 | 1限 9:30 10:50 | <u>フューチャー・デザイン演習Ⅲ</u> 講師：大阪大学 原 圭史郎教授・上須 道德教授 | |
| 2限 11:30 12:50 | <u>インクルーシブ・リーダーシップ（講義）</u> 講師：カレイディスト 塚原 月子代表 | 2限 11:10 12:30 | <u>フューチャー・デザイン演習Ⅱ</u> 講師：大阪大学 原 圭史郎教授・上須 道德教授 | <u>プロジェクトとレジリエンスについて</u> 講師：大阪大学 根岸 和政講師 | 2限 11:10 12:30 | <u>フューチャー・デザイン演習発表</u> 講師：大阪大学 原 圭史郎教授・上須 道德教授 | |
| 3限 13:50 15:10 | <u>インクルーシブ・リーダーシップ（個人演習）</u> 講師：カレイディスト 塚原 月子代表 | 3限 13:30 14:50 | <u>インクルーシブ・リーダーシップ（グループ演習）</u> 講師：カレイディスト 塚原 月子代表 | <u>知識創造とイノベーションとリーダーシップ</u> 講師：立教大学 西原 文乃准教授 | 3限 13:30 14:50 | <u>ワークライフ・キャリアビジョンを描く</u> 講師：大阪大学 高橋 美恵子教授 | |
| 4限 15:30 16:30 | 交流会 20分×3回指定のグループで交流 | 4限 15:10 16:30 | <u>インクルーシブ・リーダーシップ（振り返りとアクションプランニング）</u> 講師：カレイディスト 塚原 月子代表 | <u>知識創造とイノベーションとリーダーシップ</u> 講師：立教大学 西原 文乃准教授 | 4限 15:10 16:10 | <u>阪大・女性リーダーシップ論（まとめ）</u> 講師：大阪大学 高橋 美恵子教授 | |
| | | | | | 16:30 | 閉校式 | |

2022年度プログラム構成

根岸和政講師

(レジリエントな個人)

高橋恵美子講師

(スウェーデンにおけるジェンダー平等の取り組み)

成熟した市民社会の基盤

西原文乃先講師

(知識創造経営)

塚原月子講師

(インクルーシブ・
リーダーシップ)

原圭史郎講師

(フューチャー・デザイン)

イノベーション

リーダーシップ

上須道徳講師

まとめ

講義・グループワークのまなび・まとめ①

▶ 自己のケアと継続的な成長

- ▶ 自分の置かれている環境や立場（e.g., 女性として）を理解する
- ▶ 自分の強み（コアバリュー）・弱みを、知る・共有する・（メンターに）相談する
- ▶ レジリエンス（強靭さ、しなやかさ、危機からの成長）の獲得
- ▶ 考え方（e.g., 認知バイアス）の自己認識と修正
- ▶ 知識・教養の獲得・アップデート（e.g., 地球規模の課題やグローバル社会における価値についての理解）
- ▶ 良い競争ができる環境に身を置く（仲間で切磋琢磨・知の対立を通じた成長）
- ▶ 深い学び・継続的な学び

講義・グループワークでのまなび・まとめ②

▶ 対話やコミュニケーション、ビジョン共有を通じた価値創造・イノベーション

- ▶ 心理的安全を感じられる環境づくり (e.g., 感情の対立が少ない職場)
- ▶ 他者の成長・他者へのインフルエンス、チームメンバーの強みを生かす
- ▶ デザイン思考・アート思考の獲得、知識創造
- ▶ 将来からの視点・俯瞰的視点の獲得
- ▶ 良い(チーム)パフォーマンスから第3者(社会)へ影響を与える

▶ 勇気を出すための心がけ

- ▶ 他者に助けをもらうということはその人の成長につながる
- ▶ 小さな発言や行動でも大きな変化を生む可能性がある
- ▶ 歴史に名を残すようなリーダーは数少ないかもしれないが、一人ではリーダーにはなれない。フォロワーとなる勇気があれば、大きなうねりを生むことができるかもしれない

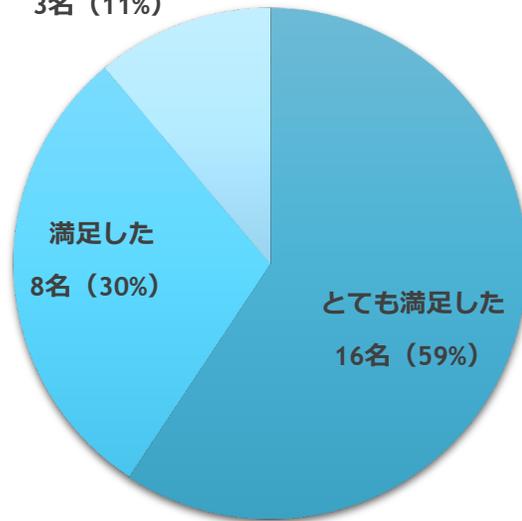
成熟した市民社会におけるリーダーシップ

- ▶ 歴史が示すのは、社会はより多様性を包摂し、主人公（主権）が権力者から一人一人の市民へ移ってきたこと
 - ▶ 政治は君主制から民主制と変わり、「市民」はより多様になり包摂が進んできた
 - ▶ 経済においても、政府や大企業に有利な法制度が消費者を守り、消費者が企業の行動を変化させるものへと変化している
- ▶ ただし、一人一人はどのような社会に生きたいのか、どのようにそのような社会を実現するのか、考え、行動する必要がある
- ▶ 受信型ではなく継続的で主体的な学びが必要。そのため目には互いに学びあっていく仲間が大切
- ▶ リーダーシップやマネジメントは「生き方」の問題

2022年度 プログラム実施結果（受講者のフィードバック）

プログラム全体への満足度をお答えください（回答者27名）

あまり満足しなかった
3名（11%）



■ とても満足した
■ 満足した
■ あまり満足しなかった

プログラムを受講して、これから会社でリーダーシップを発揮できると思いますか？（回答者27名）

あまりそう思わない

1名（4%）

そう思う

3名（11%）

どちらともいえない

6名（22%）

ややそう思う

17名（63%）

■ そう思う
■ ややそう思う
■ どちらともいえない

参加者のプログラムへの満足度は概して高い
プログラムで学んだことの有用性も感じられているようである
あまり満足しなかった理由としては：講義テーマの選択、教室の環境、議論における前提の違いの大きさ、などがあげられていた。

参加者からのフィードバック（記述回答より）

社会人と学生がともに学ぶことに対して

- ▶ どんな思いで働いているのかや実際の仕事はどうなのかなど聞いて面白かった。
- ▶ グループワークでも社会人ならではの意見も出てきて多様だと感じた。
- ▶ 社会人の方の現実性を考えた意見の視点が新鮮でした。
- ▶ 理系の社会人の方が多かったことで、自分にはない、技術的な視点を知ることができた。また、技術的な知識か社会人経験がないことなど、自分が持っていないものに目を向けて引け目に感じる必要はなく、自分の得意なところを生かして違う角度からの視点をもたらせたら良いのだと思えるようになった。
- ▶ 学生は文系や留学生の方も多かったため、自分にはない視点を持っている方も居て新鮮な感覚を感じた。
- ▶ 学生と社会人の割合が半々だったら議論がより盛り上がったのかなと思った。

プログラムに対して

- ▶ プログラムを通して何度もグループワークを繰り返す中で、リーダーに対する画一的な考え方が変化したことが良かったと思う。
- ▶ 足りないものに目を向けて自己否定しすぎずに、自分が持っているものでグループに何か新しい視点を与えられる可能性が十分にあることを実感できた。
- ▶ 学んだことを実践して自分を成長させたい、そして自分なりのリーダーシップを確立していきたいというポジティブな気持ちになった。
- ▶ 本プログラムに参加し、多様なバックラウンドを持つ先生から社会人学生と共に学ぶことが貴重な経験となった。プログラム全体を振り返ると、講義のテーマがそれぞれとても興味深く、全体の流れが適切に構成されたプログラムであったと思う。改善点としては、先生方とお話や質問する機会がもう少しあったら良かったと思う。
- ▶ リーダーシップという言葉について、いろんな人の先頭に立ってみんなを先導するというイメージがありました。今回の講義を受けてただ単に仕切るのではなく、自分の強みや弱みを見直して、自分らしい仕事の仕方や進め方からリーダーシップにつなげていくというイメージを持つことができました。

参加者からのフィードバック

(記述回答や事後ディスカッションより改善点・要望など)

プログラムに対して

- ▶ 育児休業をした方達の実際のお言葉を聞く会により、リアルな声を聞きたい。
- ▶ 女性だけではなく、男性も交えて、生活や仕事に対する考え方、キャリアの築き方・考え方を学びたいと思った。キャリアというテーマは、個々人が自分ごととして考えられるので良いテーマだと思う。
- ▶ 自分の普段行っているような業務を学問として改めて学ぶということはなるほどと思うことも多かったので、普段会社員として行っている業務や行動がどういった「型」の考え方で行われているかを学んでいけたらと思った。

教室・空間・時間割など学習環境に関して

- ▶ オープンな会場でコミュニケーションがとりやすいが、机がもう少し広いとよかったと感じる。
- ▶ モノレール阪大病院前からCMCまでの道がなくて困った。教室環境は、椅子が長時間座っているのに向いていなかったと思う。
- ▶ 4日間の開催ということで、社会人としては参加することが負担に感じた。数日にわけるなら連日開催していただく方が都合つけやすいのではないかと思った。

本プログラム実施にあたって議論された 女性リーダー育成のための目指す方向性

大阪大学憲章やOUビジョンからみる人材育成

- ▶ 「教養」、「国際性」、「デザイン力」を備えた人材
- ▶ 大学と社会の持つ教育力を交差させ、「地域に生き世界に伸びる」しなやかで闊達な「知の探検者」の育成（**成熟した市民社会における地球市民**）
- ▶ 多様性を生かすことで社会を支え（**インクルーシブリーダーシップ**）、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会の創生（**イノベーション**）に貢献する人材の育成

阪大における女性リーダー育成

⇒ **インクルーシブ・リーダーシップ**

× **イノベーション力（創生力）**

× **教養・国際性・デザイン力**

企業など異なるセクターとの協働も鍵

産学協働による女性リーダーの育成 ⇒成熟した市民社会における持続的成長への貢献

大阪大学は、「成熟した市民社会」の構成員として、社会や組織、コミュニティなど様々な場面において、時にはリーダーとして、時にはフォロワーとして活躍し、変革を起こすことのできる人材の育成に貢献する

- ・ イノベーション女性活躍推進プログラムで蓄積したノウハウやネットワークを生かしていく

国際社会で共有される価値観に基づく人財の育成

- ・ コロナ禍においても、グローバル化はいろいろな形で継続的に進展していく。したがって、多様性や包摂性など国際社会で共有される価値観を理解し共有していくことが求められる

イノベーションに貢献する人財の育成

- ・ 情報通信や生命医療、環境エネルギーなど社会を支える技術がすさまじい速度で変化していく時代において、これまで存在もしなかった問題が顕在化してくる
- ・ したがって、科学的・学術的知識や社会の価値観を更新すること、継続的に学ぶ姿勢を身に着けることが求められる

世界に広がる人的ネットワークの構築

- ・ 共有できる価値観を持つ個人間のネットワークの力や役割がますます大きくなっている
- ・ したがって、分野や国境、性別、年齢といった違いを超え、励ましあいともに学び行動していくことのできる仲間づくりの場を提供することが大切になる

地域に生き世界に伸びる